

園名 山茶花こども園

事例分類 休憩時間の確保

■サマリー

課題

・子どもから離れて、しっかり休憩をとることができていない。

目標

・子どもから離れて1日1人20分の休憩をとる。
(定着してきたら時間をのばす)
・クラスごとで休憩が取れる時間が異なるので、自由にお茶が入られる環境を整える。

成果

・休憩が取れる職員から各自でお茶入れをし、好きな菓子を選び一息つく時間が少し取れるようになった。
・またお茶入れの為クラスを離れるので他クラスの職員との会話する姿が見られた。

課題の詳細

・休憩時間でも消毒作業や未満児は連絡帳を書きながら過ごしていることが多く、ゆっくり休憩をとることができていない。
・お茶が入っても周りが作業をしていると作業をしている職員の手伝いを優先して、お茶が冷めていることがあった。
・園児が昼寝をしている間も園児の荷物の確認や消毒作業に追われ、一日の中でほっとする時間が取れない日があり、保育の質の低下が懸念される。

目標設定の意図

・短時間でも休憩時間をとる習慣をつけることで仕事の効率化、保育の質の向上を図る。

取組内容 10月

・休憩時間の大切さについて話し合いを行うが、運動会の準備や感染症対策に追われ休憩時間が取れない日々が続く。

取組内容 11-12月

- ・感染症対策が必要な中で、どのようにしたら休憩が取れるか、各クラスで話を行う。
- ・クラス主任、主幹、副主幹、園長参加の会議の中で各クラスの意見を発表する。
- ・短時間からでも休憩時間を取ることを決定する。
- ・休憩がとりたいときに取れるようにするためにはどのような環境が必要か意見を出し合い、1階、2階、調理室、児童館にお茶、お菓子セット、ポットを設置。
- ・休憩場所として1階は更衣室が使用できるように片付けを行う。2階は会議やダムウエーター前で休憩が取れるように環境を整える。

取組内容 1-2月

- ・各クラス職員同士で声をかけあいお茶の時間は取っているが、まだまだ作業をしながら休憩することが多い。
- ・更衣室で休憩できる環境を作ったが、窓がなく部屋も狭いため、各クラスで休憩する職員が多い。
- ・職員一人一人が好きな飲み物、お菓子を選ぶことができ、お茶の時間は話が弾む姿が見られる。たわいない会話が少し増えたように感じる。